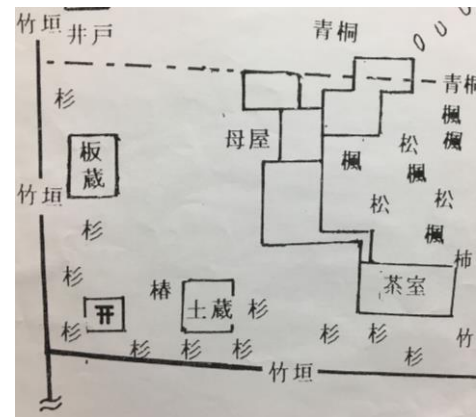
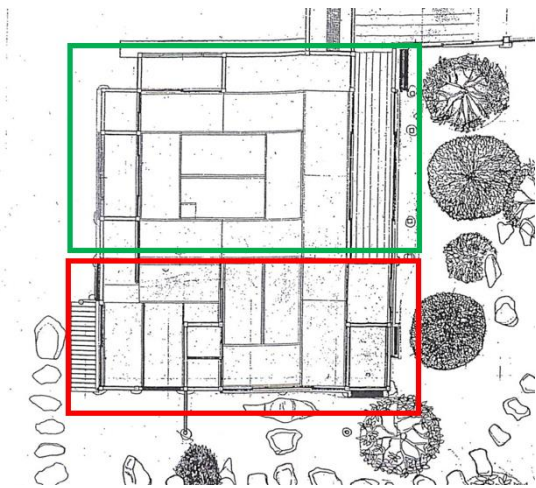


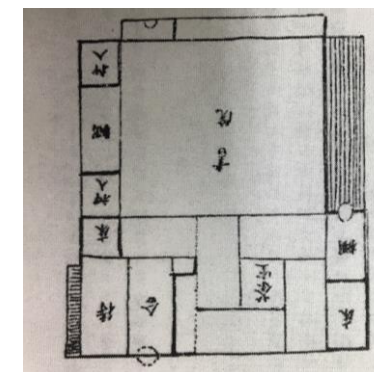
年代	事項	所在地	備考
	<ul style="list-style-type: none"> 藩祖政宗が豊臣秀吉から拝領した伏見城の遺構と言われている。（「山元町史」） この茶室は政宗が秀吉の命で朝鮮渡海後、伏見に帰っていた時、名護屋城の大手門とともに秀吉から拝領（「翠雨山房夜話(上)」） 	仙台城内	
	<ul style="list-style-type: none"> もとは仙台城二の丸にあった（「山元町史」） （茶室は）青葉城の本丸にあった。（「翠雨山房夜話(上)」） 		
天保 3(1832)	・同（天保）三年正月十一日御奉行職仰付らる、同二月太守齊邦公（龍山）の御前に於て、御茶室拝領、御上の入料を以て、當屋敷内（川内）に御建下さる。（「大條家五百年祭小志」）	川内（大條邸）	4 畳半増築か
明治 10(1877)	・（15 代道直）その死は明治 10 年、彼が 82 才の時である。死ぬまで彼は齊邦より下賜された茶室を愛し、そこに住んだ。（「翠雨山房夜話(上)」）		
明治 21(1888)	・明治二十一年（一八八八）支倉通りに（移築）（「山元町史」）		
明治	「明治の支倉図」の茶室の規模は 4 間×2 間半（「翠雨山房夜話(上)」）・・・ 10 畳間は無し		
大正 13(1924)	孫三郎道徳（宗亮）法事の古写真・・・ 10 畳間で撮影	支倉（大條邸）	明治末から大正にかけて 10 畳間増築
大正から昭和 11	仙台市支倉通北二番丁西南角なる伊達氏（大條氏のこと）の邸内にある茶室にして是は藩主より拝領したるものにして初めは川内柳丁の自邸に在りしを支倉通へ移したるものなるが其茶室の名を此君亭といへり其間取は下図の如し・・・現在の平面と同じ（10 畳間あり）		
昭和 7(1932)	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 7 年、支倉改築の時に坂元の三の丸に移され、今日に至っている。（「翠雨山房夜話(上)」） 「このお茶室は昭和の初め仙台から移したもので、土台も石も一緒に運び、専門の大工さんが建てたのだそうです。」（「拓郷」第 4 号） 	坂元	



明治時代の支倉図



大正 13 年 道徳（宗亮）法事の古写真



大正～昭和 11「仙台風俗志」

茶室平面図（「内山家茶室実測調査報告書」より）

「大條家ゆかりの茶室」フォーラム 資料（永井康雄）